

令和 4 年

第12回教育委員会会議録

(開会 令和 4 年11月10日)

(閉会 令和 4 年11月10日)

岐阜県可児市教育委員会

令和4年11月10日午前9時00分開会

会場：市役所4階第3会議室

出席委員

堀部好彦君（教育長）

長井知子君（教育委員）

梶田知靖君（教育委員）

小栗照代君（教育委員）

伊藤小百合君（教育委員）

説明のために出席した者

渡辺勝彦君（事務局長）

佐藤一洋君（学校給食センター所長）

三宅愛彦君（教育研究所主任指導主事）

福田真弓君（学校教育課学校支援係長）

飯田晋司君（教育総務課長）

上北泰久君（学校教育課主任指導主事）

真野純次君（学校教育課指導主事）

木村千恵君（学校教育課学校支援係）

出席委員会事務局職員

木村彰伯君（教育総務課総務係長）

小池拓哉君（教育総務課総務係）

古川詩織君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

1 開 会

2 前回、前々回の会議録の承認

3 教育長報告

4 教育委員報告

5 議 事

①議案第27号 教育に関する予算の意見について（令和4年度可児市一般会計補正
予算（第7号）） （原案承認）

②議案第28号 可児市教育委員会表彰規則に基づく被表彰者の決定について
（原案可決）

③議案第29号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について （原案可決）

6 各課所管事項

7 委員からの提案協議事項

8 その他

9 閉 会

開会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） おはようございます。
第12回の教育委員会会議を開催させていただきます。
定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということによりまして、よろしくお願いいたします。

前回、前々回の会議録の承認

- 教育長（堀部好彦君） 前回、前々回会議録の承認について。
- 教育総務課長（飯田晋司君） 前回、前々回ともに変更はございません。
- 教育長（堀部好彦君） 変更なしということによりまして、よろしくお願いいたします。

教育長報告

- 教育長（堀部好彦君） では、教育長報告、2点でございます。
1点目、笑顔の学校公表会、11月2日、皆さんの御協力、御理解の下で昨年度と同様リモート開催ということで、本当に大きな成果が得られたのではないかなあと考えております。1点目はこの公表会のことでございます。
今年、帷子小学校、旭小学校、東明小学校、3校が創意工夫してすばらしい公開をしていただきました。3校とも「笑顔の“もと”」を明確にして、その具現を目指して様々な教育活動を位置づけている、ここが大変すばらしいなあと感じました。「笑顔の“もと”」はこれですと言い切っているところがうれしかったですし、それからそのためにこれをやりますという、重点的にこれをやっていますということももちろんあるんですけど、日常の様々な活動と「笑顔の“もと”」を育むことが結びついているということがよく分かるDVDだったなあと感じております。またこの辺り、皆さん教育委員さんいろいろ感想があるかと思っておりますので、いろいろ教えていただくとありがたいなあと感じております。
「笑顔の“もと”」については、昨年度の後半ぐらいから各校にはしっかり話をしているわけですが、それが各校の学校経営にしっかりと位置づき始めているのかなあという実感を持つことができ、私としては大変うれしいなあと感じております。
教育委員さん方をお願いなんですけれども、今後また学校訪問やら、校長先生等職員とのお話をする機会があると思うんですけれども、その折には、この「笑顔の“もと”」のことを話題にさせていただいて、未来の笑顔につながるということをいつも意識していただいて、そのために学校がどんな努力をしておられるのかということをつかみながら、学校のやっておられることを価値づけてやっていただくとありがたいなあと感じております。これまでも不登校のことだとか、タブレットの活用だとかということと学校の状況をつかんでいただいて、いろんなお話をさせていただいておるわけですが、それに加えてといたしますか、いつも「笑顔の“もと”」についても意識をしていただくとありがたいです。
それから今後なんですけれども、これは事務局の皆さん向けのお話を差し上げたいんですけれども、「笑顔の“もと”」については、その理念はかなり浸透してきているよ

うに思っています。そして、校長はじめ、今言ったように学校経営の中核に位置づけながらやり始めている学校が出てきている。そういう中で、私たちとしては次のステップを考えたいなあと思っています。

つまり、何かというと、「笑顔の“もと”」は本当に未来につながるためには必要なこと、これが必要だと思っています。それは、子供自身が僕の「笑顔の“もと”」はこうこうですと子供の言葉で言えること、これがとっても大切。学校側がこうだよ、ああだよということを、「笑顔の“もと”」はこれです。なので、こんな指導をしていますと言っても、子供が本当に分かっているかどうかという、これは前どなたか教育委員さんで話題にされたんじゃないですかね。「笑顔の“もと”」ということではなくて、こうしてね、ああしてね、こうしないかんよと言ってきたんだけど、子供は分かっていたと。何かそんなことを話題にされたことがあったんじゃないかなあと思うんだけど、教育というのは、指導する側と子供と両者いるんだけど、こうすべきだ、こうするといいよ、だからこんな姿がいいんだよ。だから、こんなふうにしていきましょうねという確認は子供たちにやっているんだけど、こうやってやっていますよ、ああやってやっていますよと。じゃあ、子供に「これはどう思っているの」、この視点がとても大切で、両者が。今は学校側がその気になってくださっているの、次は子供です。子供が、僕の「笑顔の“もと”」はって、子供の言葉で言えるようにしていきたいなあ。それが、そういう視点を学校に示していくことが大切じゃないかなあと思います。ただ、これは矢継ぎ早でどんどんいって、あれもこれもというふうに学校が思っているわけではないので、学校がやっていることを本当に受け止めながら、よくやっていただいていますねということで感謝の気持ちを伝えながら、少しずつ少しずつだと思っています。その少しずつなんだけれども、私たちとしては明確に見通しを持っていく必要があるだろうなど。

じゃあ、その“もと”を子供たちが言えるようにするためにどうするかというと、これはまた後ほどというか、今後教育委員さんには具体を示していくわけですが、キャリア・パスポートというものを活用します。文科省が数年前から学校に呼びかけて、これを使ってくれと言っているものなんだけど、キャリア・パスポートというものを活用して、子供たちが自分の「笑顔の“もと”」を自覚できるようにしていきたいなあと考えています。何のことかよく分からないかと思うんですけども、このことについては既に少しずつ今進めていって、真野指導主事が中心になって今進めています。この件については、研究所の三宅主任指導主事がいつも「笑顔の“もと”」重点事業ということで啓発をしてくださっております。次の重要な一手のキャリア・パスポートについては、真野指導主事とも連携を取りながらやっていただけるとありがたいなあと思います。この動きについては、校長会や教頭会等で真野主事さんが話をしているので、三宅主任指導主事が概要はつかんでおられると思うんだけど、ここはそんなことも思っていますので、学校の先生方に無理強いをして、やらされ感になっては絶対にこれはいけないと思っていますので、慎重にしていきたいなあと思っています。これが大きく1点目、笑顔の学校公表会についてです。

2点目ですが、PTA連合会の教育懇談会、11月8日、おとといですね、これもすばらしい会をやっていただきました。参加された教育委員さん、本当にありがとうございました。

ました。遅くまでお疲れさまでした。

ありがたいなあと思っていることは、保護者の主体性を感じるということです。あの場でも私申し上げたんですけれども、これまでの懇談会というと、どうしても親さんの教育委員会や学校への要望をお聞きして、それについて教育委員会が考えていることをお話しする。やれることとやれないことがあってね、やれることは、こういうことはきちっとやりますけど、今の御要望のこの点についてはまだ予算的なことがあって難しいですなんていう話に終始していた。要望を出す、要望に応えるというような構図だったのを、一緒になって子供たちのために何ができるんだろうかということを考える。そういった考える時間を通して、お互いの気持ちを、子供たちに向かう気持ちを高め合う会だったなあと思っています。非常にいい流れになってきているなあ。保護者からの要望を私たちが嫌うということではないです。要望をお聞きするときもちろん必要だと思し、日常的にそれは聞いていかないかなあと思っているんですけれども、年1回の大切なあの1時間を、その時間のみで終始しているのは非常にもったいないなあと思っておったんですけれども、大変よい流れをつくってくださっていると思っています。

このことは、コミュニティ・スクールにも結びつくと思っています。コミュニティ・スクールは、学校や保護者と地域の方々がこんな子供たちを育てていこうという気持ちを一つにして、そしてそれぞれが主体的になって自分にできることはということと考えていく仕組みなんですけれども、この間のああいった教育懇談会で保護者の方々の主体性が見られるということは、コミュニティ・スクールに移行していく大変いい流れにもなっていくんじゃないかなあと思っています。

以上、笑顔の公表会と学校公表会と教育懇談会についての感想でございました。

教育委員報告

○ 教育長（堀部好彦君） それでは、教育委員報告に入りたいと思います。

○ 教育委員（小栗照代君） おはようございます。

何点かお話しさせていただきたいと思います。

教育長の今の御報告にかぶるところも出てくるんですけれども、まず11月2日、笑顔の学校公表会、こちらのほう、私も研究所での動画を拝見させていただきました。最初に教育長のお話がありまして、「笑顔の“もと”」ということについての熱い思いを再びお聞きすることができました。

私は東明小学校の動画を拝見させていただいたんですけれども、まず生徒会についてですが、児童が活発に意見を話し合っていて、素晴らしい活動が行われているなあと思いました。そして、委員会からの連絡などオンラインを活用することで有効的に使っているというところでも大変素晴らしいなあと思いました。

続いて、授業についてなんですけれども、こちらは2年生の算数の授業を拝見させていただきました。2年生ですが、本当に活発的に積極的に挙手する子供たちの姿が大変素晴らしいなあと思いました。それから算数の授業ですので、ペアになって、1人が足し算の説明をもう一人にする。先生が授業をしたものを自分が聞いて、友達に説明をする。聞いていた友達は、発表の感想を相手の子にしてあげるということで、算数の授業ももちろん理解を深めますし、発表したものの感想を言うということで、算数にこだわ

らずに、説明するという事で意見が言えるようになってくる。大変すばらしい取組だなと思いました。

それから、2年生がICTを見事に使っているという点も大変すばらしいと思いました。黒板の前できちんと話が、説明をできたり、操作もしっかりできるということで、大変すばらしいなと思いました。

それから、前に出て発表した子がちょっとささいな失敗をしたんですけれども、そのときにみんながくすくすっと笑ったんですが、そのときに先生が「笑わない」ということをしっかりとそのときにおっしゃっている。こういう一言がすごく大切だろうなあとと思いました。笑われると思う子は、前で発表したくないなとか、また笑われるんじゃないかなと思うんでしょうけれども、先生が自分の味方だよということを示していただいているので、子供はきっとまた手を挙げて発表してくれるんだだろうなあと、そんなふうに拝見させていただきました。

それから、授業で使っていた磁石玉が、子供たちが使っているもの、先生の手作りだということにして、そういったものを使って授業を進めやすく分かりやすくしてくださっている先生の御努力は本当にすばらしいなあとと思いました。ただ、そういったものをお作りになる時間もかかってしまうので、そういったところはもちろん考えていただく点でもあるのかなあと思いましたけれども、子供たちにより理解をしやすいようにということで、先生方がふだんから一生懸命やっていたいただいているというのをひしひしと感じることができました。

ちょっと長くなっていますが、すみません。

次に、11月8日の市P連との教育懇談会についてです。先ほど教育長からもお話がありましたけれども、円になって、机がない状態で、私たちもその中に入れていただいて、話合いの輪の中で参加させていただくという方法が取られました。今まで何年か、2回私も参加させていただいたときに、一方的な机を挟んでのやり取りというのはちょっとどうかなということでもちょっと意見を言わせていただいたこともあったんですけれども、大変すばらしい会だったなと思います。役員のスリム化の話であったりとか、役員の選出についてのお話であったりとか、それから役員を楽しんでいるんだよというようなお話もありまして、大変建設的で積極的な意見をお伺いすることができたなと思います。結論がすぐに出るお話ではないんですけれども、今後も私たちも一緒に話合いを進めていって、よりよい方向に行くように、子供たちのためにどうしていったらいいかということなどを常に考えて改善を続けていけたらなあとというふうに思いました。

続いてですけれども、兼山小学校のほうに訪問に行ってまいりました。教頭先生からお話をお伺いしたんですけれども、特に小規模特認校がこれで半年たったので、どんな状況かなということでお聞きしたくてお伺いをしたんですけれども、入られた方全員じゃないんですけれども、大勢の中が苦手な子がやっぱり多いということなんですけれども、兼山小学校に通うようになって、徐々に来られるようになってきている子がとても多いということをおっしゃってくださいました。1年生から小規模特認校ということで入られた子に関しては、兼山在住の児童と全く変わらず楽しく学校生活を送っていらっしゃるということです。4年生以上については金管バンドに参加をしていただいているんですけれども、小規模特認校の制度を利用した子供たちも金管が楽しいということで、

学校に来るのにそれを目標にというか、楽しみで学校に来ている子もいますよというお話をおっしゃってくださいました。

あと、6年生が3人、小規模特認校で入っていらっしゃるんですけども、そのうち1人が共和中学校を希望していらっしゃるということです。あとの2人は今考え中ということなんですけれども、共和中学校を希望しているということで、どういった手続きをしていけばいいのかとか、これからその子に対してどういう対応をしていったらいいのかということが今課題ですということをおっしゃっていらっしゃいました。

それから、制度を利用していらっしゃる児童の保護者の御意見なんですけれども、学校に行って楽しく過ごせていると。御自分の子供の笑顔を見られるようになったことがとてもいいということで、大変好評いただいているというお話を伺いました。

それから、兼山在住の児童の保護者の方の様子をお伺いしたんですけども、まずは複式を回避できてよかったということと、それから違う空気という言い方はちょっとあれなんですけれども、お友達が増えたので、子供も大変喜んでいて、親も喜んでますというお話でした。

それから、兼山小学校のイベントでわいわい交流会というのがあるんですけども、こちらは御家族が参加されるんですけども、兼山在住の子のおばあちゃんとかが参加されると。そこに、その制度を利用しているお母さんもいらっしゃって、おばあちゃんとお母さんといういろいろお話が弾んで、地元のおばあちゃんたちが大変喜んでいらっしゃったということをおっしゃってくださいました。

○ **教育長（堀部好彦君）** 学校だよりも紹介されていますね。

○ **教育委員（小栗照代君）** そうですね。あと、金管についてなんですけれども、コンクールは出ないように今年から決めたということで、子供たちと話し合って、そういった方向性にしてきたよということです。

今の問題点は何かありますかというお話をしましたら、教室の数がちょっと足りないということと特別支援の部屋が狭いと。増えてきたので、狭くなってきてしまっているので、その辺りを考えていただけたらなあと。あと、外国籍の割合が増えてきているというようなことです。

それと、もっと小規模の子たちに細やかに見てあげたいんですけども、やっぱり人が足りないところをおっしゃっていましたが、反面、手をかけ過ぎないということも大事にしていこうということを先生方にもお話ししていますよということをおっしゃっていただいたので、子供たちに自立という点も踏まえながら、見据えて対応していただけるなということで本当にありがたいなと思いました。

あと最後になります。ちょっとすみません、長くなりましたけれども。

今週の月曜日に、西可児中学校で職業体験の講話があったということです。たまたまその講師をしてくださった方のお一人にお話をお伺いすることができたものですから、その方はケーキ屋さんをやっているオーナーパティシエの方なんですけれども、準備にやっぱり時間がかかると。当日も半日店を休んで参加をしてくださった、先生をやってくださったということで、子供たちにケーキ作りをぜひ体験してほしいということで、実費でスポンジケーキとか生クリームとか、そういったものを持って行って子供たちにやってもらったということです。

○ 教育長（堀部好彦君） やってもらったの。

○ 教育委員（小栗照代君） はい。レクチャーして、子供たちにも作ってもらって、それを食べたということです。

不格好なケーキではあるんですけども、みんなが喜んで取り組んでくれたことを見て、御自身が最初に修業を始めた頃の上手にできない頃を思い出して、初心に返ることが自分自身もできたと。子供たちも不格好だからと言いながらも大変喜んでくれて、その姿を見られて本当によかったとおっしゃってくださいました。この中で一人でも興味を持って、可児市でパティシエになってくれたらいいなあ、うれしいなあなんて感想をおっしゃっていらっしゃいました。

そういった地域の方々に助けられて、可児の子供たちというのは育っているのは本当にありがたいなあというふうに思いましたので、御報告させていただきました。以上です。

○ 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。

これまでの御欠席の鬱憤を晴らすような、雄弁に語っていただきまして大変よく分かりました。ありがとうございます。

授業で大変いい視点を見ていただいたなあと思っています。算数の内容とは関わらないところの感想交流の値打ち、本当にそうですよね。表現力を高めたいというのが今の文科省がずうっと言っていることなんです、そういうことを受けた取組の一つではあるだろうなあと思っています。また、ICTの活用だとか、それから先生の一言がとっても光っているなあとか、何げないとか、手作りの教材すてきやなあとかいうようなことは、きっと市内の先生方、DVDを見られた先生方は、それぞれの視点でその学校のよさをやっぱり肌で感じ取ったのではないかなあと改めて思いました。

それから、兼山小学校の小規模特認校につきましては、これも大変貴重な情報をいただきましてありがとうございます。私も教育総務課に指示をしまして、今年度、初年度の小規模特認校の成果をきちっとまとめてほしいというふうに言って、この間報告を受けたところです。まさに小栗委員が今おっしゃっているのは、今年度の成果であったらうなど。子供たちが少人数のよさを感じながら、そして特色である金管バンドを楽しんでいる。まさに私たちが願った特認校のよさを感じて、笑顔で暮らしている子供たちの報告をいただきました。いい成果を得られたのではないかなあと改めて思います。

それと、先ほどのパティシエの職業講話についてなんですが、これは大変重要なことでして、それぞれの学校はいろんなやり方で将来の夢について子供たちに考えさせる指導をしております。それは「笑顔の“もと”」ということから考えると、自分はどんな仕事で将来生活をしていくのかということを考えるときに、どんな充実感を求めていくのか、どんな人間になっていくのか、どんなことで社会に役に立つ人間になっていくのかということを見詰めていくことになると思います。パティシエの充実感、ああ、この人はこんなことが充実、こんなことをやりがいにして生きておられるんだなあという、これはまさに「笑顔の“もと”」じゃないですか。中学生は、そういった職業について考えることで「笑顔の“もと”」について見詰めるということになるのかなということも思っていますので、それぞれの訪問の中で、そういった職業についてどう学んでいくのかということも話題にされるといいのではないかなあと思いました。ありがとうございます

ました。

○ **教育委員（長井知子君）** おはようございます。よろしくお願ひします。

私も今週に教育懇談会、各PTA会長さんとの会に出席してきました。そこである会長さんが言われていたのが、PTA活動に対してマイナスなことだけではなくて、プラスのことも伝えていったほうがいいんじゃないかと言われていました。そこで思ったのは、今は本当に大変な時代で、物価や税金は上がっていくのに収入が増えないとか、AIが発達してよくも悪くも淘汰されていく、そんな生きにくい時代になってきました。

そう思ったときに、物事は1つであっても、自分の考え方や見方次第でよくもなったり悪くもなったりするので、そういった力を身につけられると、子供も大人も今よりは生きやすくなるんじゃないかなあと思いました。勉強も大切ですし、学歴も経済力も大切だと思うんですけども、私たち親は子供よりも先に死んでいくので、子供たちに何が大切かなと考えたときに、生き抜く力、強くてたくましくて、でも、ぽきっと折れないしなやかな心子供たちに教えていくことが私たち親や大人の役目なんじゃないかなと。そして、教育委員としても、そういったことを子供たちに伝えていけたらいいなあと思いました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

この間の懇談会のことをまた思い出しながら、今のお話をお伺いしました。長井委員が自分の生き方を語っておられたあのときの姿は大変印象的だったんですけども、人の役に立つ人間でありたいといった親としての姿勢をきちっと持っていらっしゃる保護者がきつといらっしゃる。ほかにもいらっしゃるだろうし、あそこにお集まりの方々はどういった方々だったんだろうと思います。

なので、例えば子だくさんのお母さんいらっしゃいましたよね。あの方が非常に大きくうなずいておられた、長井さんのお話のときに。最初、私が子供に対する願ひを持つ親さんでありたいですよという話をしたときにも大きくうなずいておられました。きつとあの方は、自分の子供たちに対して、一人一人に違う願ひなのか共通した願ひなのか分からないんですけども、非常に強い願ひを持って子育てをしておられるんだなあと思いました。やっぱりそういった方々がいらっしゃる一方で、そうじゃなくて、今、長井さんが言われたように、日々の暮らしに本当に追われて、子供に対する願ひを持つどころじゃない御家庭もある。これもきちっと捉えた上で、私たちは家庭への支援ということを考えていかなくちゃいけないなあと思います。そういった意味で、いつも福田係長が提案をしてくださる準要保護等の書類、あの辺りもきちっとそういう考えで見、判断をしてということも思っています。ありがとうございます。

○ **教育委員（伊藤小百合君）** おはようございます。よろしくお願ひいたします。

教育委員としての活動はなかったんですけども、11月2日の笑顔の学校公表会を欠席したんですが、教育研究所の御配慮でDVDを貸していただきまして、私は帷子小学校の1年生の算数を見せていただきました。授業担当の先生がすごく穏やかで優しい人柄をすごく感じる事ができまして、また動作ごとによって子供たちを「すばらしい」「できたね」とか、すごい感情を込めて褒めたりとか認めたりして、また子供たちが答えてきたこととか、してくれたことに対して「ありがとう」って言葉を発して、すごく見ていて気持ちのいい授業だなというのを感じました。

内容は数と計算の加法・減法で、表現とかというのは、動作や声を交えて、例えば足すときは、合わせるんですけど、手を合わせるように「がっちゃん」という言葉を使ったりとか、引くときは離すように「すーっと」という、ああ面白いなあ。授業にメリハリがあるというか、やっぱり子供たちもずうっと言われたことをやってとか、考えているんだけど、そういうことだけじゃなくて、ふだんの動作を取り入れているというところに面白みを感じたというか、飽きないというか、ちょっと言葉が見つからないんですけども、というのがすごくよかったなあと思っています。

そして次に、順番をすごく大切にされていて、説明のときに「まず」「次に」「そして」「だから」という順番に気をつけて説明をするようにされていたんですけども、多分ずうっと力を入れてきたのではないかなと感じました。子供たちも上手にそれを、必ずしもそういう言葉じゃないんですけども、順を追ってうまく説明ができていて、ああ、積み重ねというのはすごいんだなと感じました。この重点を置いて継続してきた、多分1年生入ってしばらくしてからだと思うんですけども、結果に身につけてきたというのをすごく感じまして、これは教科の取得のみではなくて、何事にもこういう継続されてきていることが身につけてきて、いずれ成長の過程を見ながらいろいろなものを、自分の周りのことだったりとか、勉強のみならず、大切な基礎の積み重ねができていうか、それも伴って成長してきているというのを見ることができてよかったなあと思っています。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** 伊藤委員さん、大変大切な視点を捉えてくださって、三宅主任指導主事、ありがたいよね。DVDを見ていただいたかがありますよね。
- **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** そうですね。細かいところまでよく見ていただいて。
- **教育長（堀部好彦君）** 私たち教員系が見ても、今のようなことを御指摘いただいたところは、本当に大切なところやなあということを思います。やっぱり人柄ですよ。その人柄が出る「すばらしい」「できたね」「ありがとう」という言葉が自然に出ている。そういった姿を市内の学校の先生方があれを見られたときに、最近言っていないよなあとか、大変やったでとか、そうやって振り返っているんですよ、きっとね。

それから、これも低学年の指導の本当の大切なところを見てくださいったと思うんですけど、低学年って言葉分らないでしょう。算数で足す、引くって、なかなかこれ分かるようで分からん。それを「がっちゃん」とか、「すーっ」とかという言葉で概念をつくっているんです。合わせるということだとか、引くという。引くと数が少なくなるよ、合わせると数が大きくなるよということなんだけど、それを今言った言葉、子供たちにずっと入ってくる言葉で理解させていく、そして概念をつくっていくという低学年ならではの指導で、こういった指導を中学校の先生が見ると、おおーって思うんですよ。中学校の先生は、そういったことをきちつきちと踏まえて、概念ができて、言葉の意味が分かってくる子を相手にしている。中学校1年生からね。なので、小学校・中学校のそういった理解にもつながるんですね。「まず」「次に」「だから」という言葉で表現をさせていくということも、これは表現力を身につけさせる、先ほど小栗委員のときに私申し上げたんですけども、そういった表現力を身につけさせる上で非常に有効な手だてではあると思います。

ということで、授業を見る視点をいろいろ持つことも大切じゃないかなあと思うので、こういうところで学び合えるといいかなあと思います。本当にありがとうございました。

○ **教育委員（梶田知靖君）** おはようございます。

私は、教育委員の活動として、先日の11月2日の笑顔の学校公表会と、先日、市P連の座談会のほうに出席をさせていただきました。

その2つの会での共通したお話で、最初に、教育長さんからのばら教室の卒業生の子が今そこで教師として働いているというお話をお聞きしまして、本当にすばらしいなあと思いました。それこそ先日、市P連のときにもお話しされて、最初は御両親が先に日本へ来て、向こうで幼少を過ごして、こちらへ中学1年生のときからですかね。こちらで勉強されて、そこで今度は私が子供たちを教えたいという気持ちが芽生えたことがすばらしいなあと思いました。そんなすばらしい可児市の学校教育ができていのかなあと思います。ばら教室ができた最初のほうの先生、その後、上野先生ですかね、お会いしたときにいろいろお話もお聞きしたこともありますけれども、なかなか言葉が通じないようなところもあるかと思うんですけど、本当にすばらしいなあと思いました。

笑顔の学校公表会で、私も帷子小学校のDVDを拝見させていただきました。算数の授業で筆算に関わるころを拝見させていただきました。授業の内容としては、ICTを活用した授業で、自分が思っていたことを黒板に板書するとかそういうわけではなくて、子供たちが上手に画面をタッチして、いろんな計算の仕方があるんだなあと思いながら拝見してもらいました。DVDの風景では、本当に先生も子供たちもふだんどおりの授業風景で、たくさんいろんなところから先生が見ていらっしやる中で何も緊張もなく、いい授業の進め方ができているなあと思います。先生と子供との間に、とても信頼感があるのかなあと思いました。見ていて。一人一人お子さんが、考え方がいろいろ違って、算数の授業で3桁の掛け算の問題だったんですけど、私は百の位、十の位、一の位を分けて計算をしたりだとか、本当に一人一人分かりやすく授業を進めていたので、とてもためになりました。

市P連の座談会では、僕、ああいった形で参加させていただくのは初めてでして、私も過去にはPTAの役員を務めさせていただいたんですけど、とても雰囲気の良い座談会だなあと思いました。小栗委員や長井委員さんが言ってみえたように、今スマート化というか、役員をなるべく減らしたいというお話が出ていて、なかなかPTA活動に理解していただくということは皆さん敬遠する部分があるのかなあと思うんですけども、子供って、やっぱり親がやっていることは見ているんじゃないかなあと思うんですね。なので、親御さんが学校へ行くことによって、子供もうれしいんじゃないかなあと思うんです。今日、お父さん何で学校に来たんだろうとか、お母さん何で来たんだろうなって、こういう話を多分したりだったりとか、本当にちょっとしたことではあると思うんですけど、親御さんが学校に出入りすることによって、ふだんの子供の姿も見られるでしょうし、スマート化って、どんどん学級委員を減らすというのも分かりますが、もう少しやっぱりPTAって先生方と保護者との組織なので、もっとスマート化ではなくて、何かもっと学校さんに関わっていてもいいんじゃないかなあと思いました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございました。

梶田委員も、この間の公表会と懇談会について、すばらしい視点を持ってお話をして

いただきました。ばら教室のあの子については、私もいろんなところで話をさせていただいております。本当に感動したので、梶田委員も感動してくださってありがたいです。ばら教室のあの子に会ったときを思い出すと、「日本に来てからの6年間でどんなことが成長できたと思う」と聞いたときに、彼女はしばらく考えて「ジ、ド、ク」って言った。その後に、それが「自立」だったよということが分かった。あの瞬間が本当に僕は感動して、涙が出そうだったです。本当に大変やったやろうな。でも、その中でよくそんなことが言える、ここまで頑張れたよねということで本当に感動したんだけど、可児市の宝やと室長さんがおっしゃっているそのとおりだと思っています。可児市ならではの話し、可児市が目指すべき子供像のうちの一つではないかなということを感じているので、私はいろんなところで話をさせていただいております。

ばら教室については、修了式については教育委員さん参加されたことは。

- **教育委員（伊藤小百合君）** 私は見せていただきました。
- **教育長（堀部好彦君）** どうでしたか。
- **教育委員（伊藤小百合君）** 本当に言葉を、日本語を知らないで、若干知っている子もいるかもしれないですけど、来た子たちが、あんな短い時間ですごく上手に自分の思っていることを、最後に作文を読むんですけど、それが私感動して。
- **教育長（堀部好彦君）** 一人一人が作文を読むんです。あれが泣かせますよね。
- **教育委員（伊藤小百合君）** 本当にもう涙が流れ出てくるというか、こちらが、見ているほうがすごくいろいろなことを教えられるという感動があります。ぜひ機会があったら。
- **教育長（堀部好彦君）** 本当にそうですよね。本当に修了式については、紹介をして、都合をつけて行かれるといいと思いますよ。私も同行しますので、これは教育総務、小池君か。連絡をしていただけるとありがたいです。
- **教育総務課総務係（小池拓哉君）** はい。
- **教育長（堀部好彦君）** またちょっと考えてみてください。今、コロナがまたちょっと怪しくなってきたので、対面でできるかどうかはちょっとまた。やっとなんかできるようになってきたところなんだけれど、一遍ちょっと考えてみたいと思います。大切な外国籍の子たちの指導も充実させていかなくちゃいけないなあと考えていますので、またばら教室についても話題を上げることがありましたら、よろしくをお願いします。ありがとうございました。

議事

- **教育長（堀部好彦君）** では、次に議事に入ります。
- **事務局長（渡辺勝彦君）** それでは、議案書を御覧ください。
表紙の裏ページの目次のとおり、本日は議案が3件です。
議案第27号 教育に関する予算の意見について（令和4年度可児市一般会計補正予算（第7号））、議案第28号 可児市教育委員会表彰規則に基づく被表彰者の決定について、議案第29号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、以上3件についてよろしく申し上げます。
- **教育長（堀部好彦君）** 議案第27号 教育に関する予算の意見について（令和4年

度可児市一般会計補正予算（第7号））、議案第28号 可児市教育委員会表彰規則に基づく被表彰者の決定について、議案第29号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、その他の児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録については、意思形成に関わる案件や個人情報、プライバシーに関わる情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思いますが、御異議ございますか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この件については非公開といたします。

各課所管事項

- 教育長（堀部好彦君） 各課所管事項に入ります。
- 事務局長（渡辺勝彦君） 私からは3点お話しいたします。

まず1点目ですが、県内都市教育委員会事務局長会議が11月8日に中津川市で開催されました。県内21市の教育委員会の事務局長が集まって、各市の抱える課題などについて話し合う会議です。この会議はコロナによりまして、令和元年度以来3年ぶりに開催されるものになりました。

各市から出された8議題について協議をしました。本市からは、教育大綱の見直しの状況についてお尋ねをして、本市のように教育基本計画の改定に合わせて大綱の見直しをするという市が多かったんですが、市によっては推進計画をもって大綱にすとか、大綱そのもののボリューム感も様々で、それぞれの市長の考え方等が反映されていると思いました。

それから2点目ですが、市長選挙・市議会議員補欠選挙がございました。10月16日に可児市長選・市議会議員補欠選挙が告示されて、市長選挙については現市長の富田成輝氏のほかに立候補者がなく、同日に無投票当選が決定いたしました。任期は、先日の令和4年11月7日から令和8年11月6日までの4年間となります。富田市政4期目のスタートとなりまして、現職が引き続き市長を担うということで、そういう点では大きな市政運営の変更はないと思いますが、新聞報道等を見ても、市長のお考えの中で、子育て施策の分野に関しては不登校というようなことが触れられていますので、そういった点も力を入れてくることになると思われま。来年度は市政経営計画の改定時期にもなります。そうした今後の状況も見ながら、教育基本計画の改定に取り組んでいくという形に教育委員会としてはなると考えていますので、よろしくお願ひします。

あわせて、市議会議員補欠選挙が田原議員の死去に伴って10月23日に実施されました。2名の立候補者がありまして、高木将延さんが当選されました。この方は元市議の方ですが、任期は現議員の残任期間ですので、来年の7月までとなります。今渡地区在住の方です。また御承知おきいただきたいと思います。

最後ですが、市の功労者表彰が11月3日、文化の日に総合会館の5階ホールで行われまして、市政発展に功労の方、個人34人と団体5団体、39件を表彰しました。教育委員会の関係では、8年間教育委員として本市の教育行政の発展伸長、文化の振興に貢献した丹羽千明さんが公共事務功労の表彰を受けましたので、御報告したいと思います。

私からは以上です。

- 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。

○ **教育総務課長（飯田晋司君）** 私からは、報告事項2点、連絡事項3点お伝えいたします。

まず、報告事項1点目です。

先ほど小栗委員からも小規模特認校のお話でしたが、今年度行っております小規模特認校の令和5年度に向けての説明会や学校見学会、また申込み状況などについて御報告いたします。

10月11日から今月末を申込期間としておりまして、学校説明会・見学会を10月と11月の2回設定しております。第1回の10月26日の説明会・見学会には3世帯、児童数にして4名が参加されました。そのうち2世帯2名は、指定校変更制度を利用して既に兼山小学校に通っている児童の保護者の方という状況でございます。それから、第2回の説明会・見学会、これが11月16日になるんですけれども、10月の説明会に参加した1世帯2名の再度参加を含む3世帯、児童数にして5名が参加予定ということで今準備をしております。そのうち1世帯1名が、指定校変更制度を利用して既に兼山小学校に通っている児童の世帯でございます。

現時点の正式な申込みは、2世帯2名のお申込みをこちらにいただいております。2名とも指定校変更制度の利用者が、来年度からは小規模特認校による通学をしたいということでの申込みになっております。

続きまして、報告2点目です。

「笑顔の“もと”」ロゴマークの経過報告でございます。

10月20日に、学校長等へのマークの決定の報告と併せて、この日から使用開始をいたしました。また、翌日21日には市のホームページに掲載して公表するとともに、「広報かに」の11月号に決定の記事を掲載、それから11月2日の笑顔の学校公表会でもお披露目をさせていただきました。それらと並行して、協力いただいた生徒や美術の先生へのお礼の文書を送るなどの取組をしております。これから学校や事務局がつくる文書などでマークをどんどん使っていくこととなりますので、委員の皆様が目に見える機会も増えてくると思っております。

続きまして、連絡事項1つ目でございます。

お手元に教育委員会表彰式の案内文書を置かせていただいておりますが、これは後ほどもまた表彰の審査をしていただくんですけれども、表彰式がございます。12月4日曜日9時30分から総合会館5階大ホールで開催をいたします。教育委員さんは、当日9時20分までに会場にお越しくださいますようお願いいたします。また、一緒についております体調チェック表を当日御記入の上、受付でお渡しいただくということでお持ちいただくようお願いいたします。

それから、連絡事項2つ目です。

これもお手元に行程表を置かせていただいたんですけれども、11月11日、明日、令和4年度の岐阜県市町村教育委員会連合会の研究総会に参加していただくということになっております。よろしくお願いたします。7時45分、市役所出発で、会場は海津市のOCT文化センターでございます。内容としては、総会、講演会の後に、分科会形式でのディスカッションなど、他市町村の委員とのグループ別の交流などが予定されております。教育委員は、お二人が所用、御事情があつて御欠席でございますが、来年度、可

児市でa 1 aを会場に開催されることとなっております、出席される方は、来年度の会場市の委員としての視点でも見ていただけるとありがたいと思っております。また、事務局も次年度のための視察を兼ねて随行させていただきますので、よろしく願いいたします。

最後、連絡事項3つ目です。

本日午後1時から、議会教育福祉委員会との懇談会がありますので、よろしく願いいたします。会場はこちらではなく、5階の全員協議会室でございまして、テーマは小・中学校の現状と課題についてということで、議会から指定がございました。所要時間は1時間ほどを予定しております。川合委員長が議長役で進行されるということで、教育委員の皆様にはそれに沿ってお話しいただきたいということでしたので、よろしく願いいたします。

私からは以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **学校教育課主任指導主事（上北泰久君）** 学校教育課長の代理として、所管事項についてお伝えさせていただきます。

10月14日以降、学校に関わる動きをお伝えします。

小・中学校合計陽性者の判明の報告なんですけれども、小・中学校合計124名、教職員が11名の陽性判明の報告がありました。現在閉鎖している学級はありません。油断することなく、感染症対策を進めていくように学校には指示をしています。

修学旅行や校外学習等が工夫される中で計画されています。本日から2日間ですけれども、帷子小学校と今渡北小学校が修学旅行で奈良や京都へ向かっています。それから来週以降、小学校が中心ですけれども、全て奈良・京都方面になっております。校外学習についても順番に実施されています。これまで行事で感染が広がったというような情報はありません。それぞれの学校が感染予防に注意しながら進めていただいているということになります。

前回の教育委員会会議でも、学校には心配される児童や生徒に対して家庭への電話連絡等を行い、スムーズに学校始まりを迎えられるように配慮する指導をしていることをお話しさせていただきました。特に希死念慮についてです。報告が上がってきた児童・生徒については、担当指導主事が可茂教育事務所に報告して対応について情報共有するとともに、学校の生徒指導主事と連絡を重ね、様子を確認し続けています。学校にしていることに対するストレス、暴言を吐いたことについて心が不安定になった、学校に行きたくないなどの報告をいただいております。この後、また指導主事のほうから報告があります。お願いします。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** お願いします。

では、別冊の教育研究所よりの冊子を御覧いただきたいと思います。

まず表紙の裏面です。2ページを御覧ください。

先ほどから話題にさせていただいております笑顔の学校公表会について、私からもお話をさせていただきます。

当日は御都合が悪くて、後日自宅で動画を御視聴いただいた委員さんも含めて、皆様

方にはお忙しい中、御参加をいただき本当にありがとうございました。

皆さんに御覧いただいたとおり、公表校の帷子小学校、旭小学校、東明小学校には「笑顔の“もと”」を明らかにしていただきながら、それを育むための手だてや実践を授業や委員会活動、地域とのつながりなどの日常の子供の姿を通して発表していただきました。どの学校の動画もとても工夫されており、各学校が大事にしていることがよく伝わってきたことは皆さんがお話ししていただいたとおりです。

また、各学校では、動画を視聴した後に研究会を行っていただきました。先日の教頭会では、2名の教頭先生から研究会の様子をお話ししていただきましたが、どの学校も各学校や市でよく授業研究会をやるんですが、そういうものではなくて、笑顔の学校公表会であるということ意識して、公表校の「笑顔の“もと”」を育むための取組から学んで自校を振り返るといった研究会をしていただいております、これが今回の公表会の大きな成果だったなあということ私を捉えております。

3ページを御覧いただいてよろしいでしょうか。

上段の四角に囲ってあるのは、公表会後に公表校の教務主任さんから伺った話です。今回、プロの業者の方が撮影・編集してくれたおかげで、負担感が本当に少なく済んだ。あと、当日は参集型という集まるものではなかったので、自分の学校の「笑顔の“もと”」についてもゆっくり振り返ることができた。このような形なら、これからも長く続けていける公表会だったと感じたというような話をしてくれました。

また、その下の四角です。これは広陵中学校で行われた研究会のまとめを送っていただいたものです。今、各学校からいただいておりますが、広陵中学校、皆さんも御承知のとおり、1小1中でありますので、帷子小学校の動画を見て研究会をしてくれたようです。

少し読ませてください。

帷子小学校の公表校の「笑顔の“もと”」を育む実践から学んだこととしては、帷子小学校と広陵中学校の連携した取組である家庭学習強化週間についても同様に「笑顔の“もと”」となるように指導を重ねてこられたことが大きな成果であると感じたと。近年はコロナでできていないが、近いうちに以前のように小・中学校の交流を復活させていけるとよいと感じると。そうした交流が互いの学校の「笑顔の“もと”」を充実・発展させることにつながっていくと考えるというようなことを言ってくれています。

また、自分の学校の広陵中学校の「笑顔の“もと”」を育むための取組について、現時点での成果と課題も出していただいております。成果としては、本校のたくましさを「笑顔の“もと”」であることを職員全員で共通理解、共通認識とし、日々の教育活動に当たっていると。広陵中学校が目指すたくましさは、生徒の思いや願いを実現させるための行動力であると。例えば部活の壮行会では、3年生の健闘を願って、2年生が主体となって圧巻のパフォーマンスを披露したと。このような行動力が見られるようになってきたことが広陵中学校の成果であると。しかし、課題としては、1小1中であるにもかかわらず、仲間同士の関係が希薄であるように思われる場面があると。自分から仲間へ声をかけたり、班員同士で協力して課題に取り組んだりしたりすることが苦手な生徒が一定数いると。また、自分の苦手に対峙せず、逃げてしまうという心の弱さがあると。苦手にも立ち向かって、克服できるたくましい行動力を備えた生徒の育成が今後の

課題であるということをもとめて書いてくださいました。

このまとめを読んで、私は本当に「笑顔の“もと”」という一つの柱で、各学校が大切にしている資質能力、心情ですが、小・中学校が連携しながら育てていくことの大きな意味、そして年度途中で自校の「笑顔の“もと”」について振り返り、ちょうど今、後期が始まったところですので、今後に生かそうとしている、ここの部分について大変大きな意義があるなあ実感しました。もしかすると、これは動画でじっくり見られたことが一つよかったのかもしれないし、動画で、そのときの授業だけじゃなくて、その日常、1年間かけてやってきたことというのは、半年かけてやってきたことを発表できたということも大きいかなということをおもっています。

来年度の在り方については、今後担当者会を行いながら先生方に御意見を聞いて、研究所として方向性を今年度中にはまとめていきたいなということをおもっています。

長くなっております。申し訳ございません。

次、4ページから6ページにかけてです。

「笑顔の“もと”」重点事業の進捗状況を載せましたが、特に4ページだけお願いします。

不登校対策です。10月26日に不登校傾向の児童・生徒を持つ保護者を対象にした講演会を、ウェブ配信を含めて行いました。会場には30名弱の保護者の方々においでいただきましたし、ウェブでは保護者だけでなく、当日来ることができなかった先生方にも御視聴いただきました。今後は、PTAや家庭教育学級というような子育て支援課とも連携しながら、子育てに悩んでおられる保護者に対する支援を、点で終わることなく、線をつないでいくような支援をしていきたいなあと考えております。

長くなりましたが、以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** いいえ、ありがとうございます。

公表会にかける三宅主任指導主事の気持ちが伝わってきますね。取り組んだのは学校なんだけれど、この公表会は三宅主任指導主事プロデュースだと思っています。本当に改めてありがとうございます。

○ **学校給食センター所長（佐藤一洋君）** お配りしました桜ヶ丘小学校の1枚物の資料を見ていただきたいと思います。メニュー、献立表に挟んであるものです。

11月2日、市制40周年記念の献立を実施しました。今年市制40周年ということで、今回2回目ということになります。前回もちょっとお話ししたんですけど、今回の献立のコンセプトは多文化共生ということで、フィリピン料理のメヌードという豚肉とジャガイモをトマトで煮込んだトマト味の肉じゃがみたいなものです。それから、ブラジル料理のパステウという揚げギョーザみたいな感じで、小麦粉の皮の中に肉とか野菜を刻んで入れて揚げたものです。あと、それから可児のカレースープとなっていますが、可児市のカブとかが入ったもの、それから生パインがついています。あと、味つけのりがつきまして、味つけのりのパッケージに市制40周年の記念ロゴがつけてある、そんなふうな献立になっておりました。

これは桜ヶ丘小学校さんです。こういったときに、よく校内便りに似たものを作ってくれます。見ていただくと、こういうふうになににことおいしそうに食べていただけて、やってよかったなと思ったところです。

献立をつくるに当たっては、やはり外国の料理というと、そのままだと日本人の口に合わない。特に子供ですと、なかなか口に合わないと食べてもらえないみたいなことがありますので、給食センターの栄養教諭の方たちが何度も試食を繰り返して、本来の味と日本人の口に合ういいバランスを考えてやっていました。私も試食途中のものを食べてみましたが、メヌードですと、最初食べたときはちょっと油っこいなと思ったりとか、パステウだとちょっと塩辛いなと思ったりしたものから大分緩和されて食べやすくなっていたと思います。

子供たちの感想みたいなやつを見ると、小学校と給食センターの間で連絡ノートをやっておりますけれども、ちょっと今回それをまとめてくるのができませんでしたので申し訳ないんですけど、それを見た感じですとおおむね好評でした。ただ、中にはやっぱり食べられないのでという子もいたようなことも書かれていましたので、それもいい経験なんじゃないかなと思います。今後大きくなる中で、いろんなものを食べていくと思いますので、子供の頃、こういったものを給食で食べたなということがいい経験になってくれればいいなと思っています。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

これ、桜ヶ丘小学校がいつもこうやって発信をしてくださってありがたいなあと思って、今回も本当に給食センター、素晴らしい取組をやっていただきましてありがとうございます。

こういった発信する文書に、「笑顔の“もと”」のロゴマークも入れていけるんじゃないかなあと思うね。今回の給食で言えば、桜ヶ丘小学校に通っている外国籍の子たちが、自分たちの母国の料理を日本人の友達が喜んで食べてくれたって。それって、自分が認めてもらえたという気持ちにもつながる、「笑顔の“もと”」につながるんじゃないかなあと思いますね。そういう意味で、このロゴマークをこういった発信にもつけてもらえるとありがたいなあと思いました。本当に素晴らしい取組です。ありがとうございました。

この取組についての御意見や感想、どうでしょうか。

今の報告についての質問、よろしいですかね。

〔挙手する者なし〕

ありがとうございました。

委員からの提案協議事項

○ **教育長（堀部好彦君）** では、次に教育委員からの提案協議事項についてを議題といたします。

何かありますでしょうか。

○ **教育委員（長井知子君）** 先日、ある保護者の方から聞いたんですけども、来年の春から部活動が、学校の先生方は携わずに、親さんだとか外部の講師に任せるというふうに移行していくんですよね。来年の春からですか。

○ **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** 具体的に細かく申しますと、来年度、中体連が終わり、新チームになったときから完全に移行していくという流れでやっております。実はその前の1年間、ちょうど今なんです。この前の夏の中体連が終わりま

して、今も含めて次の中体連まで、この1年間は準備期間ということで、外部指導者を探しながら保護者にも理解をいただきながらという動きを、文化スポーツ課が中心にやっていただきながら私たちも携わっているという形になります。

○ **教育委員（長井知子君）** いろんなところが関わっているので、例えばある保護者だけの考えだけを聞くだけじゃなくて、多面的に見なきゃいけないなとは思っています。保護者レベルの今の話だと、移行期間ということもあり、トラブルは絶対起こるものだと思うんですけど、かなり保護者は翻弄されていて、何かその気持ちがすごく不信感に変わっているなあと感じました。学校は何も言わない、親レベルは何したらいいかわからないけれども全部こっちに振られるみたいな、きっとその保護者と学校とか、ほかの機関との意思疎通や、そういったのが、情報の共有だとかができていないんだなあと思ったので、こういう話が保護者の中では出ているよという一つの情報としてお伝えさせていただきました。

○ **教育長（堀部好彦君）** 貴重な情報ありがとうございました。また伝えておいてください。

この件につきましては、今説明あったように、文化スポーツ課の担当が大変一生懸命やってくださっております。学校への説明、学校の思いの聞き取り、それから保護者にも昨年度からずっと説明はさせていただいておるはずなんですが、大変丁寧にやっていただいているという認識でございましたけれども、それでもやはりいろんなまだまだ酌み取らなくちゃいけない思いがあるということのようですので、また伝えておいていただきたいなあ。

それから、同時に今後この教育委員会会議で、部活動の今後について可児市がどうしていくのかということについての進捗の状況、見通しを文化スポーツ課の方に説明をしていただくというのはどうですかね。

○ **事務局長（渡辺勝彦君）** 昨年も、たしかこの場で説明していただいたと思いますので、またそういうような話を提案させてもらいたいと思います。

○ **教育長（堀部好彦君）** もう来年度からということですので、また最新版をやっていきましょう。ありがとうございます。

この件についてよろしいですか。ほかには。

〔挙手する者なし〕

じゃあ、ほかの提案事項ありましたら。

よろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

ありがとうございました。

その他

○ **教育長（堀部好彦君）** では、次にその他の次回の日程等について。

○ **教育総務課長（飯田晋司君）** 先月決めていただきました12月15日木曜日午前9時からお願いいたします。場所は、今日と若干違いまして市役所4階第1会議室、向こうの東庁舎のほうでございます。

また1月の日程ですけれども、1月19日木曜日はいかがでしょうか。大丈夫ですかね。

- 教育委員（小栗照代君） 今後は木曜日になるんですか。
- 教育総務課長（飯田晋司君） 委員さんの御都合というか、できればこの曜日がいいわとかいうことの条件を重ねていって、木曜日を基本にしたいなと思っておるんですが、よろしいですかね。
- 教育委員（伊藤小百合君） すみません、もし外していただけるなら、ちょっと家庭の事情で申し訳ないんですけど、できればずらしていただけると助かります。
- 教育総務課長（飯田晋司君） 木曜日じゃないほうが良いということですか。
- 教育委員（伊藤小百合君） はい。1月はもう結構ですので、19日で。それ以降はちょっと考えていただくと。
- 教育総務課長（飯田晋司君） そうですか。そうすると木曜日以外を、木曜日がまづいということですね。
- 教育委員（伊藤小百合君） そうですね。
- 教育総務課長（飯田晋司君） 金曜日はどうですか。
- 教育委員（伊藤小百合君） 金曜日は、私は大丈夫ですけど、皆さんの兼ね合いもあると思いますので。
- 教育総務課長（飯田晋司君） 今までちょっとお聞きした中で、小栗委員は火曜日が御都合悪いと。それから、長井委員は特に曜日ではないということですね。伊藤委員が木曜日の御都合が悪いので、梶田委員は週の頭はできるだけ外してほしいということと、可能ならば木・金のどちらかぐらいがということでしたので、今後金曜日を基本にということにさせていただいてよろしいですか。
- 教育委員（小栗照代君） そうですね、多少決めていただくと、先のスケジュールの予定が立ちやすいので、ありがたいです。
- 教育総務課長（飯田晋司君） 分かりました。
では、今回はよろしいですか。1月に関してはよろしいですか。
- 教育委員（伊藤小百合君） はい。
- 教育総務課長（飯田晋司君） では、1月19日9時からということでお願いをしたいと思います。以上です。
- 教育長（堀部好彦君） では、1月19日9時ということでよろしくお願いをします。休憩なしで行こうかなあと思っておったんですが、どうでしょうか。
〔「ちょっと休憩を」の声あり〕
ちょっと入れますか。1時間超えましたのでね。
じゃあ、あの時計で10時25分から再開したいと思いますので、よろしくお願いします。
休憩 午前10時16分
再開 午前10時25分
- 教育長（堀部好彦君） それでは、休憩前に引き続きまして会議を再開いたします。

（以下非公開）

（以上非公開）

閉会の宣告

○ 教育長（堀部好彦君） 以上で教育委員会会議を終了させていただきます。お疲れさまでした。

閉会 午前11時05分